白百合女子大学バドミントン部
3連覇達成！
～第14回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会～

初日夜の懇親会で本学の紹介（この後、校歌斉唱）をする主将。30名以上いる他学にあって、わずか7名だったが少数精鋭で見劣りせず

大会を通じて連戦連勝の1年生ペア。ミスをしても動じずに笑顔を絶やさず、「あっ、ごめん！」「いいよ」の会話でいつしかペースをつかみ、流れをわたさなかった

思わぬ苦戦を強いられた対聖心女子大学戦を制し、コートでオールスタッフによる記念撮影。白熱した接戦に勝利した直後だけに笑顔がはじける

11月29日（土）・30日（日）の両日、聖心女子大学を会場として同大学のほか、ノートルダム清心女子大学（岡山、NDSU）、京都ノートルダム女子大学、清泉女子大学、本学の5大学が4種の競技（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、硬式テニス）で総合優勝を争う年に一度のスポーツイベントが開催された。各大学の選手、引率者計148名が集まり、聖心の各施設に加えて、聖心インターナショナルスクールや聖心女子学院高等科の体育館も利用して熱戦を繰り広げた。

本学はバドミントンのみ参加。4年生と2年生が各2人、1年生が3人というメンバー構成で出場。対戦相手ごとに3シングルス、2ダブルスの5試合を戦い、3勝したほうが勝利となる。初日はNDSU、清泉に連勝、しかし2日目は予想どおり京都と接線となり、“大将戦”にもつれたが主将（2年）が強烈なスマッシュを連発、これを制した。残る聖心戦は予想以上に苦戦。聖心に勝利しないと京都に優勝をさらわれかねない状況に追い込まれ、優勝の行方は最後のダブルス戦に持ち込まれた。4年生と2年生のペアは第1セット前半は常に3～4ポイント引き離される苦しい展開。中盤から何とか逆に2ポイント程度のリードを保てるようになり、このセットをものにした。続く第2セットは前のセット以上に苦戦。中盤を過ぎてもリードは奪えず、何とかマッチポイント近くでようやく逆転、先にマッチポイント（20点）を迎えたが、相手に得点を許しデュースに。ここからは先取しては追いつかれる展開を4度繰り返し、最後は25－23でからくも振り切った。

特に2日目は選手、顧問の先生を含む引率者が一丸となって声援を送り、バドミントンの「応援」に関しても質量ともに他大学を圧倒したという自負がある。